

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 22 年度農業農村工学会賞の決定について	60
○平成 23 年度農業農村工学会賞候補の推薦について	60
○平成 22 年度農業農村工学会大会講演会関連会告の追加について	61
○第 34 回水の週間「ウォーターフェア '10 東京」農業用水の展示出展について	61
○平成 22 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い	62
○学会誌および論文集の英文名変更に関する意見聴取について	62
○土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—発行のお知らせ (再)	62
○論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について (再)	63
○平成 22 年度「研究グループ」の助成金募集について (再)	63
○平成 22 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について (再)	64
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	64
○「農業農村工学会学術基金」の募金について	65
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	65
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 23 年春季の表紙写真の募集	66
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	66
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル	
「Paddy and Water Environment」について	67
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと	
2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	67
○第 53 回東北支部研究発表会の開催について (第 1 報)	68
○第 44 回東北支部研修会・第 34 回地方講習会の開催について (第 1 報)	68
○第 61 回関東支部大会講演会の開催について (第 1 報)	69
○中国四国支部第 65 回講演会ならびに第 34 回地方講習会の開催について (第 1 報)	69
○平成 22 年度九州支部第 91 回講演会・ポスターセッション・第 33 回講習会・シンポジウム・	
現地見学会の開催について (第 1 報)	69
○平成 22 年度農業農村整備サマーセミナー (第 48 回) の開催について	70
○ICID 第 21 回総会, 第 8 回国際マイクロ灌漑会議における発表論文の募集について	70
農業農村工学会論文集第 267 号内容紹介	72
学会記事	74

第 78 巻第 7 号予定

展望：生物多様性と暮らす：端 憲二

小特集：田園地域・里地里山の保全と生物多様性

①波付き管水田魚道の可能性：佐藤武信ほか

②半自然草原における植物の多様性維持に向けた新たな課題：小路 敦

③東京に現存する水田地帯の特徴とその意義：皆川明子ほか

④ため池の保全における現状と課題：満尾世志人ほか

技術レポート

北海道支部：縦型暗渠湧水処理工法の簡易な調査設計：渡部由宏ほか

東北支部：沈埋工法による管路の埋設事例：坂下幸男ほか

関東支部：県営中山間地域総合整備事業における地域活性化の取り組み事例：杉浦正一

京都支部：滋賀県型アセットマネジメントによる姉川沿岸地区の合同診断：左寄雄一郎

中四国支部：鋼製棧道橋の設計・施工及び維持管理上の配慮：川口 裕ほか

九州支部：プラスチックボードドレーン工法に適用する圧密係数：原田 稔

小講座：生物多様性指標：森 淳

私のビジョン：ヨコハマシラガイが生息する谷津田周辺の水路の保全への一提言：柿野 亘

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成22年8月26,27日	畑地整備研究部会	第48回畑地かんがい研究集会 ⓑ	くだもの王国を支える栽培・灌漑技術	岡山市, 倉敷市	78巻5号
平成22年8月31日~9月3日	大会運営委員会	平成22年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ		神戸市	77巻12号 78巻1,3,4,6号
平成22年9月9,10日	農村計画研究部会	第32回現地研修集会 ⓑ	水で結ぶ新たな絆を次世代に	高松市	78巻5号
平成22年10月19,20日	九州支部	第91回講演会・ポスターセッション・第33回講習会・シンポジウム・現地見学会 ⓑ		熊本市	78巻6号
平成22年10月20日	関東支部	第61回大会講演会 ⓑ		甲府市	78巻6号
平成22年10月27,28日	中国四国支部	第65回講演会・第34回地方講習会 ⓑ		山口市	78巻6号
平成22年11月18日	東北支部	第53回研究発表会 ⓑ		盛岡市	78巻6号
平成22年11月19日	東北支部	第44回研修会・第34回地方講習会 ⓑ		盛岡市	78巻6号

平成22年度農業農村工学会賞の決定について

平成22年度の農業農村工学会賞は、平成22年5月13日(木)の理事会において、学術賞3件、研究奨励賞5件、技術奨励賞1件、優秀論文賞3件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞6件、著作賞1件、教育賞1件、環境賞1件、歴史・文化賞1件、国際貢献賞1件、功労賞4件、上野賞1件、沢

田賞2件が決定いたしました。授与式は、来る8月31日(火)に神戸大学第2キャンパス神戸大学百年記念館で行われます。なお、詳細は本号巻頭平成22年度農業農村工学会大会講演会のページを参照下さい。

平成23年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成23年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成22年10月末日です。推薦書様式および、授賞規程は学会HPをご参照下さい。

平成23年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象範囲および期間	平成17年10月から平成22年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成19年10月から平成22年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成19年10月から平成22年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成21年10月から平成22年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成20年10月から平成22年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成17年10月から平成22年9月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート
受賞候補者	会員			会員または会員の属する組織・団体	会員	
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工の事例並びに管理・保全活動	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成12年10月から平成22年9月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成12年10月から平成22年9月までの業績を対象とする	平成20年10月から平成22年9月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建築物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成17年10月から平成22年9月までの業績を対象とする	平成17年10月から平成22年9月までの活動を対象とする	平成17年10月から平成22年9月までの活動を対象とする	平成20年10月から平成22年9月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成22年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者 会員の資格の有無を問わない	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員（名誉会員を除く）
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成22年10月末日							
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

平成22年度農業農村工学会大会講演会関連会告の追加について

3月号および4月号会告に、下線部分を追加いたしますので、ご注意ください。

<学会誌3月号会告75ページ>

7. 託児室について

今回の大会では託児所をご用意いたしませんのでご了承下さい。

今回は会場における託児サービスをご用意していませんが、民間施設利用者に利用料の補助（託児1人当たり8,000円/日を上限）をいたします。ご希望の方は9月3日までに実行委員会事務局にお申し出下さい。領収書の提出により利用料をお支払いいたします。（実行委員会事務局連絡先、担当：多田明夫、Tel.078-803-5897、Email：atada@kobe-u.ac.jp、ご相談・

不明点等ございましたら左記までお問い合わせ下さい。

<学会誌4月号80ページ>

3. 出展料

- ① 広告1ページ 60,000円
- ② 広告1/2ページ 30,000円
- ③ 企業展示（屋内） 100,000円
- ④ 企業展示（屋外） 80,000円
- ⑤ 広告1ページ+企業展示（屋内） 140,000円
- ⑥ 広告1/2ページ+企業展示（屋内） 120,000円

屋外展示の出展料にかかる基準面積については、屋内の基準面積(2.5m×2m)を参考にして別途協議させていただきます。

第34回水の週間「ウォーターフェア'10東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア'10東京』は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展

することとなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園 2-1）

期 日 平成22年7月30日（金）～8月1日（日）
9：30～16：50（初日のみ10：30～）

平成22年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も JABEE 農学系分野審査講習会が7月24日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。本講習会は JABEE 公認で、講習会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブサーバー参加を経て審査員の資格が得られます。奮って、ご参加下さい。(なお、プログラム、参加申込書等、詳細は決定次第農業農村工学会ホームページに掲載する予定です。)

1. 日 時 平成22年7月24日(土) 9:25~17:30
(17:30より情報交換会あり)
2. 場 所 東京大学弥生講堂
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学農学部内

http://www.au-tokyo.ac.jp/yayoi/

3. 参加費 5,000円(当日現金にて受付)
4. 懇親会費 2,000円(当日現金にて受付)
5. 申込方法
農業農村工学会ホームページより、申込書および審査員登録票(電子メール版)をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記へ電子メールでお申し込み下さい。
6. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚賀央
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp
7. 申込締切 平成22年7月16日(金)

学会誌および論文集の英文名変更に関する意見聴取について

学会誌編集委員会・論文集編集委員会

学会誌編集委員会と論文集編集委員会では、それぞれの英文名について下記のように検討を行い、変更案を作成いたしました。

つきましては、両委員会での検討内容をもとに、英文名の変更に関して、会員各位からご意見をいただきたくお願い申し上げます。多くの会員各位からのご意見をお待ちしております。

なお、ご意見は、平成22年8月13日(金)までに、電子メールにて学会事務局編集出版部(henshu@jsidre.or.jp)までお送り下さい。

◆論文集編集委員会

論文集の現在の英文名は「Transactions of the Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering (引用のための略記: Trans. of JSIDRE)」ですが、「Transactions」では会議録などの意味で受け止められる可能性もあり、本誌が名実ともに、学術的な論文集であることを示すには、やはり国際的に広く用いられている「Journal」という呼称を用いるのが適当であると思われま

す。このようなことから、論文集編集委員会では、論文集の新たな英文名として下記を採用することを提案いたします。

新英文名称(案)

Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal (引用のための略記: IDRE Journal)

◆学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、論文集の英文名変更の提案を受け、学会誌の現在の英文名「Journal of the Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering」について検討を行いました。その結果、論文集、学会誌の両誌に、ともに「Journal」の呼称を用いることは好ましくなく、学会誌についても名称変更することが適当であるとの結論に至りました。

このようなことから、学会誌編集委員会では、学会誌の新たな英文名として下記を採用することを提案いたします。

新英文名称(案)

Water, Land and Environmental Engineering

土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—発行のお知らせ(再)

このたび、土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—が、平成22年4月19日に発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

※詳しくは本誌5月号に改訂の主旨を掲載いたしましたので、ご参照下さい。

書籍名…土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—
価 格…2,400円(税込・送料学会負担)

規 格…A4判 約220ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合(代金後払)

FAXかメールでお申し込み下さい。様式は問いません。

ご希望冊数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

II. 個人、会社で購入される場合(代金先払)

①現金書留:書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

②郵便振替(00160-8-47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

申 込 先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について (再)

論文集編集委員会

論文集の J-STAGE への登載について、論文集購読者へのアンケートおよびホームページにおけるパブリックコメント聴取を経て、発行 1 年後に論文集掲載論文を J-STAGE へ登載すること、また、登載料として著者に 4,000 円を負担していただくことを第 210 回理事会(平成 21 年 5 月 19 日開催)において決定し、論文集 259 号(2009 年 2 月号)より J-STAGE へ登載すべく準備を進めております。

現在、投稿料 16,000 円を投稿時にお振り込みいただいておりますが、J-STAGE への登載料 4,000 円についてもあらかじめ徴収することとし、平成 22 年 4 月 1 日受付分より合計

20,000 円をお振り込みいただくことといたしました。

その理由としては、論文集の発行と同時に J-STAGE へ登載するために JST に支払う必要があるからです。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料 4,000 円は返金いたします。

なお、論文集 259 号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承くださいたくよろしくお願い申し上げます。

なお、論文集 259 号の J-STAGE への登載時期は、今年の夏以降を予定しております。

平成 22 年度「研究グループ」の助成金募集について (再)

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 22 年 6 月 30 日(水)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会 HP 参照)で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要な事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意して作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考に、学会誌刷上がり 1～2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成22年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（平成22年度、原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成22年9月17日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成22年9月17日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集！！

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間24CPDポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌2月号に掲載された通信教育問題から配点を改正（正解率70%以上の場合1.0CPDポイントから1.5CPDポイントへ、正解率100%の場合1.5CPDポイントから2.0CPDポイントへ）いたしました。詳細については、第53回通信教育問題（学会誌2月号65ページ）をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつCPD会員の方は、農

業農村工学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）にある参加申込書に必要事項を記入してメール（E-mail：kaiito@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、技術者継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>、<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、CPD運営委員会通

信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメール (E-mail : kaito@cpdjsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年 4 月中に取得した点数を本人にお知らせし、5 月上旬から希望により有料で「CPD 取得証明書」を発行します。

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 21 年度までに 54 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況を鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2 年ごと更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2~3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する (年度予算限度額 300 万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成23年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでの地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでもなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻（平成23年1～12月号）のうち、特に春季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

平成22年6月30日（春季の写真）

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いいたします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 78, 79 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
78 巻 8 号 農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術 (仮)	公募終了	
9 号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり (仮)	公募終了	
10 号 農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全 (仮)	公募終了	
11 号 コスト削減に資する圃場整備 (仮)	公募終了	平成 22 年 7 月 12 日
12 号 小特集なし		
79 巻 1 号 教育の場における次世代育成の現状と課題 (仮)	平成 22 年 7 月 26 日	平成 22 年 9 月 10 日
2 号 ため池と農業農村工学 (仮)	平成 22 年 8 月 25 日	平成 22 年 10 月 12 日
3 号 農村における生物多様性の保全 (仮)	公募なし	
4 号 地域貢献とフィールド研究 (仮)	平成 22 年 10 月 25 日	平成 22 年 12 月 10 日
5 号 土および土中構造物数値解析の農業農村工学における最前線 (仮)	平成 22 年 11 月 25 日	平成 23 年 1 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010 年 6 月末に Vol.8, No.2 が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010 年 6 月末に Vol.8, No.2 が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社のSCIEに収録され、インパクトファクターを獲得したというビックニュースが飛び込んできました。詳細についてはEditor-in-Chiefによる海外ニュースが本誌1月号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、

土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan.

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

第53回東北支部研究発表会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期日 平成22年11月18日(木)
2. 会場 「アイーナ」いわて県民情報交流センター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1
☎019-606-1717 FAX 019-606-1716

3. 問合せ先
岩手大学農学部共生環境課程 小林, 東
〒020-8550 盛岡市上田3-18-8
☎&FAX 019-621-6190

第44回東北支部研修会・第34回地方講習会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期日 平成22年11月19日(金)
2. 会場 「ホテルルイズ」
〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通7-15
☎019-625-2611 FAX 019-625-2673

3. 問合せ先
岩手県農林水産部農村建設課 菅原, 小坂
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
☎019-629-5682 FAX 019-629-5694

第 61 回関東支部大会講演会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日 時
 (1) 支部大会, 講演会, 情報交換会
 平成 22 年 10 月 20 日 (水) 時間未定
 (2) 現地研修会 開催予定なし
2. 場 所
 (1) 支部大会, 講演会 山梨県甲府市丸の内 1-1-17
 『ベルクラシック甲府』
 (2) 情報交換会 未定
3. 参加申込み
 (1) 講演会, 情報交換会
 参加申込締切日:平成 22 年 8 月 31 日 (火)
 (2) 講演申込み
4. 問合せ先 (事務局)
 山梨県農政道耕地課
 〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1
 ☎055-223-1627 FAX 055-223-1624
 E-mail : kouchi@pref.yamanashi.lg.jp
5. その他
 詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。
- 申込締切日:平成 22 年 7 月 30 日 (金)
 原稿締切日:平成 22 年 8 月 31 日 (火)
 講演申込み希望者は、「講演者所属および氏名」,「演題 (仮題でも可)」「講演要旨(200 字以内)」を明記のうえ, 下記事務局まで申込み下さい。

中国四国支部第 65 回講演会ならびに第 34 回地方講習会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 講演会
 日時:平成 22 年 10 月 27 日 (水) 9:00~16:30
 会場:山口県教育会館
 〒753-0072 山口県山口市大手町 2-18
 ☎083-922-5766
 プログラム:未定
2. 情報交換会
 日時:平成 22 年 10 月 27 日 (水) 18:00~20:00
 会場:セントコア山口
 〒753-0056 山口県山口市湯田温泉 3-2-7
 ☎083-922-0811
3. 地方講習会
 日時:平成 22 年 10 月 28 日 (木) 9:00~15:00
 会場:山口県教育会館
 〒753-0072 山口県山口市大手町 2-18
 ☎083-922-5766
 内容:未定
4. 申込窓口・問合せ先
- (1) 参加申込み・講演発表原稿提出窓口および原稿提出に関する問合せ先
 農業農村工学会中国四国支部事務局 清水克之
 〒680-8553 鳥取県鳥取市湖山町南 4-101
 鳥取大学農学部生物資源環境学科
 ☎&FAX 0857-31-5395
 E-mail : jsidre-chushi@muses.tottori-u.ac.jp
- (2) 参加申込みに関する問合せ先
 山口県農林水産部農村整備課技術管理班
 藤永, 浜村, 福田
 〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1
 ☎083-933-3418 FAX 083-933-3429
 E-mail : a17500@pref.yamaguchi.lg.jp
5. 詳細
 講演会および情報交換会の詳細については, 第 2 報を本誌 7 月号に掲載の予定です。
 また, 地方講習会の詳細については, 第 3 報を 8 月号または 9 月号に掲載の予定です。

平成 22 年度九州支部第 91 回講演会・ポスターセッション
 第 33 回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日
 (1) 講演会・ポスターセッション
 平成 22 年 10 月 19 日 (火)
 (2) 講習会・シンポジウム・現地見学会
 平成 22 年 10 月 20 日 (水)
2. 会 場 ホテル熊本テルサ
 〒862-0956 熊本市水前寺公園 28-51
 ☎096-387-7777
3. プログラム, 申込方法等 詳細は第 2 報でお知らせします。
4. 問合せ先
 熊本県農林水産部農村計画・技術管理課技術管理室
 池部, 後藤
 〒862-8570 熊本市水前寺 6-18-1
 ☎096-333-2426 FAX 096-383-0367

平成 22 年度農業農村整備サマーセミナー（第 48 回）の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



主催 全国農村振興技術連盟

後援 (社) 農業農村工学会

1. テーマ

「食」と「地域」の再生にむけた農業農村整備の展開方向
～新たな食料・農業・農村基本計画を踏まえて～

2. 趣旨

全国農村振興技術連盟では、会員の総合的な技術力向上を図るため、毎年、農業農村整備サマーセミナーを実施しており、今夏は標記のテーマで開催致します。

本年 3 月、新たな「食料・農業・農村基本計画」が策定され、「食」と「地域」の早急な再生を図っていくこととなりました。基本計画では、農業・農村が国民食料の安定供給や多面的機能といった役割を持続的に果たして行くため、連盟会員に関わりの深い分野として、優良農地の確保と有効利用の促進、農業生産力強化に向けた農業生産基盤整備への見直し、更には集落機能の維持と生態系や景観を含む農村環境の保全への支援などを進めることとされています。

本セミナーでは、新基本計画に応じた農業農村整備の今日的役割を考える契機となるよう、下記の要領で開催することと致しました。各界の有識者の方々から、国内外の農政の動きとともに、連盟会員の活動に深く関わる、土（土壌）、農村空間、農村環境についてご講演を頂くことにしていますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

3. 開催日 平成 22 年 7 月 7 日（水）9：50～17：00

受付は 9：15 から行います。

4. 場所 東京都千代田区北の丸公園 2-1 科学技術館 B2F
サイエンスホール ☎03-3212-8485

5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります。)

9：50～10：30 開会挨拶・大賞表彰式

10：30～11：50 「世界の農政と新たな食料・農業・農村基本計画」

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 鈴木 宣弘

12：50～14：10 「土壌の持つ多様な機能と今日的な役割について」

(財) 日本土壌協会会長・東京大学名誉教授 松本 聰

14：20～15：40 「空間としてとらえた農村の今日と将来」

東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 桑子 敏雄

15：40～17：00 「農業環境政策の世界の潮流と農業農村整備」
学習院女子大学国際文化交流学部教授 莊林幹太郎6. 参加費 8,000 円（昼食代は含まず。参加費は当日会場
申し受けます。)

7. 申込締切 平成 22 年 6 月 21 日（月）

8. 参加申込方法および申込先

①各地方連盟で取りまとめのうえ、所属する地方協議会にお
申し込み下さい。②地方協議会に所属されていない個人会員の方は、全国農村
振興技術連盟へ直接お申し込み下さい③お申し込みはいずれも、所属・氏名を明記のうえ、E-mail、
FAX またはハガキをお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

全国農村振興技術連盟

☎03-3434-5407 FAX 03-3578-7176

E-mail : kensyu@n-renmei.jp

9. その他

本セミナーは農業農村工学会技術者継続教育機構の会員の
CPD 単位(5 単位申請中)にカウントされるとともに、農業土
木技術管理士の資格更新に必要な研修に代わる研修になってい
ます。申込書等詳細は、全国農村振興技術連盟ホームページ
<http://www.n-renmei.jp/>をご覧ください。

ICID 第 21 回総会、第 8 回国際マイクロ灌漑会議における発表論文の募集について

2011 年 10 月に、イラン・テヘランにおいて、国際かんがい
排水委員会 (ICID) 第 21 回総会および第 8 回国際マイクロ灌
漑会議が開催されます。

ICID 日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議にお
ける発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、別記の
連絡先までご連絡下さい。なお、提出いただいた要旨と結論
(Summary and Conclusion) は、ICID 日本国内委員会で内容
を確認した後に、会議主催者に提出いたします。

1. 会議開催概要

開催期間：2011 年 10 月 15 日（土）～23 日（日）

開催場所：イラン・テヘラン

2. 発表者募集の対象会議

ICID 第 21 回総会

ICID 第 8 回国際マイクロ灌漑会議

3. 募集テーマ

(1) ICID 第 21 回総会

【総会テーマ】

Water Productivity Towards Food Security

【総会議題】

1) Water and Land Productivity Challenges

① Water and Land Productivity : Concepts, Indices and
Targets

- ② Innovations, Technologies and best practices for sustaining and/or increasing Water and Land Productivity
- ③ Productivity of Poor Quality Waters for Irrigation Uses
- ④ Improving Crop Water Productivity under Stressed Environment
- ⑤ Irrigation and Drainage Management Improvements
- 2) Water Management in Rainfed Agriculture
 - ① Drainage and Flood Management in Rainfed Farming
 - ② Water Harvesting and Conservation
 - ③ Supplementary Irrigation
 - ④ Rainfed Farm Management
- 【スペシャルセッションテーマ】
Modernization of Water Management Schemes
- 【シンポジウムテーマ】
Climate Change Impacts on Soil and Water Resources
- 【セミナーテーマ】
Possibilities of Using Traditional Methods in Modern Water Management Systems
- (2) ICID 第 8 回マイクロ灌漑会議
【マイクロ灌漑会議テーマ】
Innovation in Technology and Management of Micro irrigation for Enhanced Crop and Water Productivity
 - 1) Best management practices/success stories of micro irrigation adoption
 - 2) Lessons learnt from failures in up scaling micro irrigation
 - 3) Developments in Subsurface micro-irrigation
 - 4) Low cost and low energy consuming irrigation systems
 - 5) Automation in micro irrigation
 - 6) Micro irrigation in greenhouses
 - 7) Micro-irrigation for small scale farms
 - 8) Use of low quality waters in micro-irrigation
 - 9) Modeling, design and decision support system in micro-irrigation
 - 10) Advances in operation and cost effective maintenance of micro-irrigation systems
 - 11) Management and cost of micro-irrigation for large farms
 - 12) Efficiency and productivity in micro irrigation systems
 - 13) Socio-economic consequences of the conversion of traditional systems to micro irrigation systems

- 14) Analysis of long term sustainability of micro irrigation systems
- 15) Technical performance and quality assessment of micro-irrigation systems
- 16) LCA (Life Cycle Analysis) applied to micro irrigation

4. 参加表明および要旨と結論の提出

2010年7月28日(水)までに論文提出者の氏名を、2010年8月13日(金)までに要旨と結論(Summary and Conclusion)をそれぞれE-mailで、8.に記載の宛先まで、ご提出下さい。

5. 作成要領

要旨と結論を500~600字の英文で作成。連絡先著者の氏名をファイル名としたワードデータ(例. 総研太郎の場合, souken_tarou.doc)とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスをご記載下さい(連絡先著者を最初に記載)。

なお、提出頂いた要旨と結論については、日本国内委員会では内容を確認いたします。その結果については、2010年8月27日(金)までにご連絡いたします。

詳細は、第21回総会および第8回国際マイクロ灌漑会議のウェブサイト(<http://icid2011.org/>)でご確認下さい。

6. 論文の作成

Full Paperの作成要領は、第21回総会および第8回国際マイクロ灌漑会議のウェブサイト(英語)に掲載されているCall for Papersをご参照下さい。主催者より追加情報があれば、発表予定者にご連絡いたします。なお、Full Paperについては、2011年2月22日(火)までにご提出下さい。

7. 今後の予定

- ・日本国内委員会の論文参加氏名登録の締切
2010年7月28日(水)
- ・会議主催者への論文参加氏名登録の報告
2010年7月30日(金)
- ・日本国内委員会の要旨と結論の締切
2010年8月13日(金)
- ・会議主催者への要旨と結論の提出
2010年9月1日(水)
- ・会議主催者による要旨と結論の受理の公示
2010年12月15日(水)
- ・日本国内委員会のFull Paper締切
2011年2月22日(火)
- ・会議主催者のFull Paper締切
2011年3月1日(火)

8. 論文送付先および連絡先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル
(財)日本水土総合研究所(日本国内委員会事務局)

☎03-3502-1576 FAX 03-3502-1329

担当: 福田 康 yasushi-fukuda@jiid.or.jp

高野 伸 shin-takano@jiid.or.jp